令和 8 年度第 2 回 中津市部活動地域展開検討委員会 議事録

◎会議概要
【日時】 令和 8 年 10 月 7 日（水） 14:00～16:00
【場所】 中津市役所本庁 4 階　研修室
【議題】:
　１．経過・取組報告
　２．中津市部活動地域展開推進計画（案）について

◎出席者
（１）委員：出席 9 名
秋吉委員、冨永委員、長野委員、中尾委員、代田委員、吉田委員、岸原委員、田中委員、小林委員

（２）事務局：8 名
大下教育長、奥久部長、尾家室長、馬場主幹、山下主任、戸成主任、徳市コーディネーター、折元主幹

（３）関係課： 10 所属
教育総務課、社会教育課、歴史博物館、小幡記念図書館、体育・給食課、地域振興・広聴課、情報デジタル推進課、商業・ブランド推進課、耶馬溪支所地域振興課、山国支所地域振興課

１．開会

〇尾家部活動地域展開推進室長より開会の挨拶を行った。

〇事務局より、中津市部活動地域展開検討委員会運営要綱（以下、「運営要綱」という）第5条第2項の規定に基づき、出席委員が12名中9名であり会議が成立する旨を報告した。

２．委員長あいさつ

〇委員長より、繁忙の中出席した委員および事前の資料作成を行ってきた事務局へ謝意が述べられた。

〇本日の検討委員会では、今後部活動の地域展開を推進する上で重要な「中津市部活動地域展開推進計画（案）」が提案されることから、委員各位による活発かつ十分な議論を求める旨が要請された。

３．議題

〇議事開始前に、委員長より、運営要綱第6条の規定に基づく会議の公開の可否が諮られ、公開とする旨が承認された。

（１）経過・取組報告

●事務局より、資料（5ページ～13ページ）に沿って、第1回検討委員会にて出された意見に対する検討状況および各種調査結果について報告を行った。

【質疑応答・意見交換】

〇B委員：自身が校長をしている中学校（大規模校）の吹奏楽部では、月額3,000円程度の部費を徴収している。楽器のメンテナンス、コンクール出場時のトラックの借り上げ・貸し切りバスによる生徒輸送などの経費を賄えているのは、多くの部員がおり、一定の活動費を確保できているからという面が大きい。地域展開により活動が小規模に分散した場合、維持や練習場所の確保が困難になる懸念がある。

　現在、中学校部活動の指導を中心で担っている学校教職員は、日常的にハラスメント防止を意識しているが、地域展開後は教職員以外の外部人材も指導に関わることが多くなるため、指導者の資質について懸念する意見が出されたものと考える。

　中津市における部活動地域展開の進捗状況や目的が、現場の教職員へ十分に浸透していない状況にあり、「現状で協力可能な団体がどれだけあるのか」「指導者になりうる人材がいるのか」が分からず、今後のあり方に不安を持つ教職員も一定数存在する。費用負担の面・指導者の面も含め、現在の状況を把握できるような仕組みを整えることが必要と考える。

〇J委員：部活動地域展開の議論が始まった背景として、教職員の働き方改革を進める中で、部活動指導に対する負担軽減を図る必要性が高いということがあったと聞いている。教職

員や生徒・保護者に不安を与えないよう、中津市として新しい取組の目的や内容を丁寧に説明し、賛同者を増やすことが必要である。

〇A 委員：学校ごとの規模や教職員の意識の違いを踏まえ、事務局からきめ細かな説明を行っていく必要があると考える。

【先進地視察報告（長野県飯田市・阿智村）・取組報告】
●事務局より、資料（14 ページ～24 ページ）に沿って、先進地視察（長野県飯田市・阿智村）及び取組報告を行った。

【質疑応答・意見交換】
〇J 委員：地域企業において、部活動地域展開に対する理解度にはまだ差が見られるため、まずは取組の趣旨を丁寧に周知することが肝要である。周知の手法としては、団体等の既存広報媒体（機関紙、メールマガジン等）の活用や、写真・図を交えた分かりやすい A4 チラシを市で作成いただき、機関紙に折り込むなど、様々な媒体や手段を活用した情報発信・連携が有効である。

〇D 委員：飯田市教育委員会の取組が、現に中学校部活動で実施されている、通年で活動がある種目をどのように展開するかというものであるのに対して、エンジョイスクエアの取組は、単発実施のものや、年複数回実施のものなど多様な種類があり、両者の取組は二段構えになっていると感じた。エンジョイスクエアの取組は、「鹿角のアクセサリー作りを通して、害獣被害やその対策を知ってもらいたい」「伝統工芸である水引作りの後継者不足が進む中、何かお手伝いできればと考えた」など、様々な思いを持つ人たちで実施されていた。実際に講座を体験してみて、教職員による指導とは違う温かみなども感じることができた。これら地域の人材とこどもたちが、お互いに Win-Win の関係になっているとも感じた。
また、これらの講座の参加者募集や申込みについても、インターネット上でできるシステムが構築されていた。中津市でも、こどもたちへの指導を手伝いたい人など、関わることのできる人材は潜在的にはいるのではないかと思う。関わってもらうためにも、取組内容を周知していくことが必要だと考える。

〇A 委員：各委員からの意見を踏まえると、「周知」が重要であり課題だと感じたところ。良い取組であっても、内容を知ってもらえなければ、意欲がある人たちがいても参画につながらないと思われる。事務局は、周知の方法等についてどのように考えているか。

●事務局：公民館・コミュニティーセンターのサークル活動へのこどもたちの参加促進の取組の中で、部活動地域展開コーディネーターが実際に各館を回り、館長やサークル代表者に

取組内容を説明し理解してもらうことができたことで、協力につながったケースもあると思われる。このことからも、説明や周知をして取組内容を理解してもらうことが重要だと考えている。これまでの周知は市報掲載、中学校新入生説明会のほか、現場レベルでの説明にとどまっている。まずは取組内容の必要性について、広く皆さんにお知らせすることが必要と考えている。今後は個別訪問や既存の地域ネットワーク活用に加え、分かりやすいチラシの作成や ICT の活用など、様々な方法で情報発信を進めていきたい。

（２）中津市部活動地域展開推進計画（案）について

●事務局より「中津市部活動地域展開推進計画（案）」の骨子、目指す姿、スケジュール、策定プロセスについての説明を行った。

【質疑応答・意見交換】

〇H 委員：旧中津市内の大規模校・中規模校と、旧下毛地域の小規模校・中山間地域では、生徒数、移動手段、地理的条件が大きく異なる。全市内一律の推進計画では進んでいかないおそれがあるほか、この取組に直接関係するこどもたちや保護者、教職員にも納得してもらえないのではないかと懸念する。各々の思いを的確にとらえて進めるためにも、大規模校・中規模校・小規模校ごとや、地域ごとの個別の推進計画を作ることが必要と考える。

●事務局：中山間地域（旧下毛地域）については、体験格差を軽減するための取組検討のほか、豊かな自然や伝統を生かした独自プログラム創出の検討を図ることとしている。また、中山間地域など特殊な事情がある場合は、部活動指導員や外部指導者の配置による「地域連携」を進めることも選択肢となり得る。
計画本文中にも記載のとおり、地域ごとや学校ごとの実情に応じて、柔軟な対応を図っていく予定としている。

〇I 委員： 取組への理解と賛同を広げていくため、学校別や保護者向けのほか、各団体と連携した説明会実施を検討してほしい。実施する場合、保護者への周知は PTA 側も全面的に協力をしていきたい。

学校教職員以外が指導に関わるにあたり、指導者の適切な管理が重要であり、保護者からも心配する声が出ている。「日本版 DBS」の活用などにより、性犯罪歴・刑事罰の有無を確認する仕組みが必要と考える。また、登録時の確認にとどまらず、継続的な研修受講や巡回指導などにより、指導の質と安全性を確保してほしいという議論も出ている。

計画本文の参考資料にある、部活動地域展開に関する教職員アンケート結果（計 145 名回答）において、地域展開の認知度は 85%（125 名）と高いものの、「地域展開後に地域クラブの指導者を担いたい」と回答した教員は 31 名にとどまる。現在部活動に加入している中学生（加入率 65%・約 1,350 名）を、31 名の教職員だけで支えることは不可能であるため、

学校だけでなく、様々な分野での担い手の育成や、活動の受け皿を開拓することが必要と考える。

●事務局：何かを始めるときは、丁寧な説明を通じて関係者の理解を得ることが大前提であると認識している。本日いただいたご意見を踏まえ、事務局としても説明可能な形を整理した上で進めていきたい。

〇B 委員：学校現場の年度スタートは 4 月だが、実際の準備は前年度の 1 月～3 月に本格化する。4 月に新たに入学する中学生保護者への説明ができるよう、また、教職員の中でも地域展開に前向きな方に協力してもらい、新年度に地域クラブ活動が一つでもスタートできるよう、令和 8 年度の早い段階での策定等に向けて進めてほしい。

◎承認事項

・原案承認：出席委員全員の賛成により、「中津市部活動地域展開推進計画（案）」は本日の検討内容および意見反映を行ったのち、事務局で策定までに必要な手続きを進めることが承認された。

・今後の取り扱い：

1. 欠席委員および途中退席委員も含めたすべての委員に対し、10 月中旬～下旬にかけて文書による意見照会を実施する。
2. 提出された意見について整理し、必要に応じて修正を行う。
3. 市議会説明、パブリックコメントの実施、定例教育委員会での議決を経て、令和 8 年度中の計画策定完了・公表に向けた手続きを進める。策定時期は令和 8 年度中とし、できる限り早い時期を目指す。

◎全体総括

E 委員から、本日の委員会の全体総括を行っていただいた。

〇E 委員：

・本日提示された中津市の部活動地域展開推進計画（案）は、良く作りこまれている。一方で、学校現場などでは次年度 4 月以降に向けた準備が順次進められていくことから、計画策定の手続を進めることと同時並行で、学校現場と合意形成を図りながら、実質的な準備を進める段階に入っても良いのではないかと考える。

・推進計画に記載された「目指す姿」は、今後の方向性をぶれずに持ち続けるためにも大変重要であるため、良く考慮してほしい。

・紹介いただいたエンジョイスクエアの取組は、単なる職業体験にとどまるものではなく、新しい学習指導要領の最重要キーワードである「探究活動」につなげることを狙い

としている。探究活動を通じ、こどもたちが自分ごととして様々な体験をすることで、それが学校教育にどのようにつながっていくかを地域全体で考えることができ、生徒の自主的な学びを深めることにつながっていく。

・エンジョイスクエアの取組も、これまで 6 年ほどかかって構築したもので、一足飛びにできるものではない。少しずつでも良いので、多様な人たちを巻き込みながら取組を進めていくことが重要。

・現在、国の補助金が自治体の部活動地域展開の促進に対して予算措置されているが、令和 8 年度はその予算が余っている状況。中津市はまだ活用していないと思うので、今後積極的な活用を検討してほしい。

４．閉会

事務局より、次の連絡事項が報告された後、閉会。

・本日出された意見・要望を、計画本文の修正および来年度の実務準備に反映させていく。

・次回（第 3 回）検討委員会は、令和 8 年 11 月上旬～中旬の開催予定として日程調整を行う。